



木口

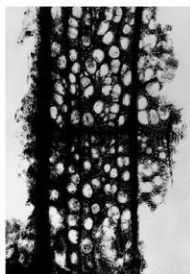
ニレ科ケヤキ属ケヤキ



柢目

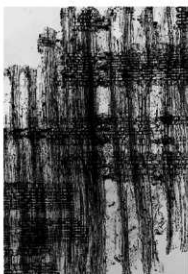


板目



木口

ブナ科ブナ属



柢目

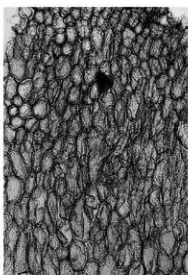


板目

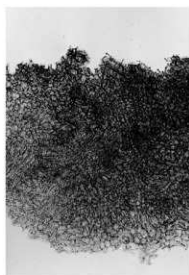


横断面

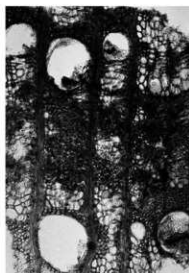
ウリ科ユウガオ属



放射断面



接線断面



木口

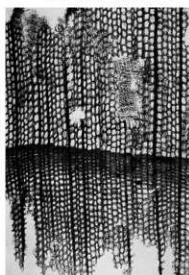
ニレ科ケヤキ属ケヤキ



径目

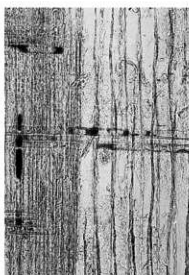


板目

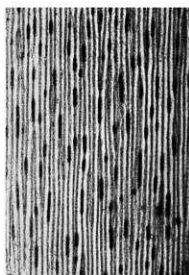


木口

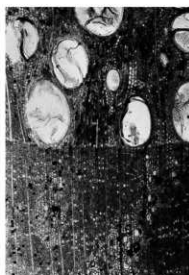
ヒノキ科アスナロ属



径目



板目



木口

ブナ科クリ属クリ



径目



板目

## 第4節 木製品の樹種同定結果（2）

高橋利彦 木工舎「ゆい」

### 1 試料

試料は 点 ー で、中世 ー 世紀 または中世の可能性が高いとされる6基の井戸跡から検出された木製品・加工材である 表1 ー を除く9点は乾燥状態にあった。

遺跡は青森平野の東北端、貴船川の支流の扇状地性低湿地上 標高約 ー m に立地し、今回の調査区の標高は約 ー mである。遺跡からは縄文時代から近世 近代 までの遺構・遺物が検出されている。

### 2 方法

プレバートの作製には、筆者が遺物から採取した材片を用いた。材片は少なくとも足かけ2年分を含み、かつできるだけ少ない量となるように努めながら遺物の目立たない場所を選び採取した。採取した材片は湯煎のち放置し吸水させた。剃刀の刃を用い、試料の木口 横断面・柁目 放射断面・板目 接線断面 3面の徒手切片を作製、これをガムクロールで封入したプレバートを生物顕微鏡で観察・同定した。併せて各分類群1点の顕微鏡写真図版を作成した 図版1 ー が、乾燥による変形・劣化が進んでいるため図版の仕上がりはよくないことをお断りしておく。作製したプレバートはすべて木工舎「ゆい」に保管されている。

### 3 結果

試料は以下の3分類群に同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、学名と配列は「日本の野生植物 木本 ー」佐竹ほか ー にしたがいが、県内での自然分布については「北本州産高等植物チェックリスト」上野 ー を参照した。また、一般的な性質などについては「木の事典 第2・7・ 巻」平井 ー 、 ー も参考にした。

#### ・アスナロ

#### ヒノキ科

早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はあるが樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみよりなる。分野壁孔は小型のヒノキ型 ー スギ型

ー で分野あたり1 - 6個。放射組織は単列、1 - 細胞高であるが5細胞高程度までの低いものが目立つ。

アスナロは本州・四国・九州に自生する日本特産の常緑高木で時に植栽される。北海道 渡島半島以南 ー 本州北部には変種ヒノキアスナロ ヒバ ー ー がある。材はやや軽軟で保存性は高い。建築・土木・家具・器具材など各種の用途が知られている。

#### ・ヤナギ属

#### ヤナギ科

散孔材で、管孔は単独および2 - 3個が複合する。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では網目状となる。放射組織は異性、単列、1 - 細胞高。変形・劣化が著しい。

ヤナギ属は国内に約 種が知られ、種間雑種も多く分類の困難な群である。属としては全国に分布し、時に植栽される落葉低木または高木である。県内にはヤマメコヤナギ バッコヤナギ

・イヌコリヤナギ など 種ほどが自生する。材は一般に軽軟で、割裂性が大きく耐朽性は低い。大径木が少ないため小細工物にする程度で、とくに重要な用途は知られていない。

#### ・ブナ属                      ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に 2 - 3 個が複合、横断面では多角形、分布密度は高い。道管はほぼ単穿孔をもつが、晩材部では段                      数が                      前後の段階穿孔をもつものもある。壁孔は大型で対列状～交互状に配列、放射組織の間では網目状となる。放射組織は同性～異性、単列、数細胞高のものから複合組織まである。柔組織は短接線状、散在状。年輪界は明瞭。

ブナ属はブナ                      とイヌブナ                      の 2 種があるが、県内にはブナのみが自生する。材はやや重硬で、強度は大きい加工はそれほど困難ではなく、耐朽性は低い。木地・器具・家具・薪炭材などの用途があったが、最近では各種の用途に用いられている。

以上の同定結果を検出遺構や推定されている用途などとともに一覧表で示す 表 1。

表 1 米山（2）遺跡出土材の樹種

試料番号	検出遺構など	用途	推定年代*	分類群	図版
1	第 号井戸跡 1 層	方形井戸枠の隅柱	中世 <sup>a</sup>	アスナロ	- 4
2	第 号井戸跡 1 層	方形井戸枠の横木	中世 <sup>a</sup>	アスナロ	
3	第 号井戸跡 1 層	方形井戸枠の縦板	中世 <sup>a</sup>	アスナロ	
4	第 2 号井戸跡	井戸枠隅柱の楔	中世 <sup>b</sup>	アスナロ	- 8
5	第 4 号井戸跡 4 層	不明 棒状	中世 <sup>c</sup>	ブナ属	- 6
6	第 4 号井戸跡 4 層	不明 釣状	中世 <sup>c</sup>	ヤナギ属	- 7
7	第 5 号井戸跡底面	漆塗椀	中世の可能性	ブナ属	-
8	第 4 号井戸跡 4 層	方形曲物底板	中世 <sup>c</sup>	アスナロ	- 8
9	第 号井戸跡底面	加工材?	中世の可能性	ブナ属	
	第 号井戸跡覆土	下駄	中世 <sup>d</sup>	アスナロ	-

\* : a ; 年前後 井戸枠縦板の年輪年代 本書第 5 章第 5 節 による b ; ~ 年 井戸枠材の C 年代測定 AMS 法、以下同様 による c ; ~ 年以前 覆土出土部材の C 年代測定による d ; ~ 年頃 試料下位から出土した部材の C 年代測定による c ~ d の測定結果は本書第 5 章第 1 節 2 参照

## 4 考察

上記のように、試料の推定年代値には最大で5世紀ほどの差がある上に一部不確定のものも含まれているが、以下の議論では一括して中世のものとして扱うこととする。

井戸枠の部材は2遺構から検出された4点<sup>＊1</sup>が検討されたが、いずれもアスナロに同定された。異なる部材のいずれもがアスナロであったことから、少なくとも第1号井戸跡では井戸枠材としてアスナロを主に用いていたようである。先行調査で検出された第7号井戸跡出土の井戸枠部材1点もアスナロに同定されている<sup>＊2</sup>。バリノ・サーヴェイ株式会社。また、本遺跡からは陸奥湾を隔て、北方<sup>km</sup>ほどに位置する川内町高野川2遺跡の室町時代とされる1号井戸の井戸枠部材<sup>隅柱・横浅・側板</sup>5点もすべてアスナロに同定されている<sup>嶋倉</sup>。こうした点から他の井戸でも同様の傾向にあった可能性は高そうである。加工のしやすさとともに耐水性に優れることから用いられたものであろう。あわせて、材料の入手しやすさもあったように思う。

漆塗椀はブナ属製であった。試料と近い時期の類例を著者は知らないが、南東<sup>km</sup>ほどに位置する市内野木遺跡出土の平安時代とされる椀物の用材はケヤキとハリギリ<sup>＊3</sup>でブナ属は認められていない<sup>能城・鈴木</sup>。一方、浪岡町浪岡城跡出土の中～近世<sup>＊4</sup>とされる漆器<sup>＊5</sup>は3点ともアスナロ<sup>＊6</sup>とされている<sup>浪岡町教育委員会</sup>。こうした違いが時代や遺跡・遺構あるいは遺物の性格によるものなのかは例数が限られていることもあり判断できない。ちなみに、岩手県内の遺跡からの出土漆器では、ブナ属製品は圧倒的多数を占めるケヤキ製の<sup>弱にすぎない</sup>ものの、平安時代から近～現代まで連続と用いられているように見るとされている<sup>高橋</sup>。今後はこうした観点からの検討も必要であろう。

方形曲物<sup>＊7</sup>の底板とされる試料はアスナロに同定された。試料の残存長・幅・厚さはそれぞれ約<sup>・ ・ cm</sup>を測り、周縁部には側板を留めたとみられる<sup>「樺皮」も認められる</sup>。試料の復元品とごく近い形状を示していると思われる<sup>「折敷」のほぼ完形品</sup>が浪岡城跡試料の中にあり、同じくアスナロ<sup>＊8</sup>が用いられている<sup>浪岡町教育委員会</sup>。また、浪岡城跡出土の<sup>「折敷」</sup>の中にはアスナロ<sup>＊9</sup>製の<sup>cm</sup>と<sup>cm</sup>の2点の破損品もあるが、これらには試料と同様に転用されたとみられる刃物痕が多数認められている。一方、現代の金木町・川内町の曲物もともにヒバが用いられているという<sup>岩井</sup>。現代まで受け継がれてきた用材選択の一例といえよう。

下駄もアスナロ製であった。一木作りの<sup>「連齒下駄」</sup>であり、木取りは<sup>「追い疋」</sup>であった。乾燥状態にあるため現状よりは若干大きかったはずであるが、元々それほど高さのある下駄ではなかったようである。井戸枠で触れた材質に加えて、軽さと軟らかさも選択の理由になったのだろう。浪岡城跡試料の中にもアスナロ製の<sup>下駄</sup>とされる遺物2点があるが、こちらは差齒下駄の台とみられている<sup>浪岡町教育委員会</sup>。

## &lt;注&gt;

\*1： この試料にはホゾ穴らしきものが認められる。旧河川跡から検出されたホゾ穴のある板材1点も井戸枠部材とされ、やはりアスナロに同定されている<sup>バリノ・サーヴェイ株式会社</sup>。

\*2： 点のうちハリギリが<sup>点</sup>、ケヤキが4点である。手元の資料で判断する限り、検討された

試料はいずれも「<sup>しらべ</sup>木」の「<sup>しらべ</sup>木椀」で塗り物は含まれていないようである。

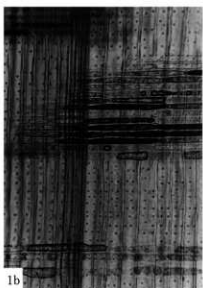
- \* 3 : 椀 2 点と椀または高坏 1 点。
- \* 4 : 原表記はアスナロヒバ。
- \* 5 : 検討された 点の大半は椀で、ケヤキが % を占め、ブナ属は % でこれに次ぐ。
- \* 6 : 狭義の曲物は底面形が円または楕円であり、試料のような角形のは通常「折敷」と呼ばれている。試料は破損していない側の 2 隅が三角形に切り落とされていることから、「角切折敷」または「足打折敷」と呼ばれる容器 岩井 の底板のようである。
- \* 7 : 角切り正方形 cm の底板上、縁から cm ほどのところに高さ 2 cm 弱の側板を回し、「樺皮」で綴じ合わせたものである。
- \* 8 : ほかにスギ製の歯 1 点もあげられている。報告者はこれを差歯の一部とみなしているが、図示されている木目から判断すると連歯下駄の歯で、「高下駄 足駄」であったようである。

#### 引用文献

- 平井信二 「木の事典 第 2 巻」、かなえ書房。
- 平井信二 「木の事典 第 7 巻」、かなえ書房。
- 平井信二 「木の事典 第 巻」、かなえ書房。
- 岩井宏實 「ものと人間の文化史 曲物」、法政大学出版社。
- 浪岡町教育委員会 木製品 木器 等、「浪岡町埋蔵文化財緊急発掘調査報告書第 3 集 浪岡城跡 - 主要地方道青森浪岡線特殊改良工事に伴う発掘調査 -」、青森県土木部・浪岡町・浪岡町教育委員会。
- 能城修一・鈴木三男 青森県野木遺跡出土木材の樹種、「青森県埋蔵文化財調査報告書第 集 野木遺跡 - 青森中核工業団地整備事業に伴う発掘調査報告 - 第 6 分冊」、青森県教育委員会。
- バリノ・サーヴェイ株式会社 米山 2 遺跡から出土した木材の樹種、「青森県埋蔵文化財調査報告書第 集 宮田館遺跡・米山 2 遺跡 - 青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 -」、青森県教育委員会。
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫 編 「日本の野生植物 木本」、平凡社。
- 嶋倉巳三郎 高野川 2 遺跡出土加工木の樹種、「青森県埋蔵文化財調査報告書第 集 高野川 2 遺跡発掘調査報告書 - 県営農免農道整備事業 高野川地区 に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -」、青森県教育委員会。
- 高橋利彦 岩手県内の遺跡から出土した木質遺物の樹種 - 下駄と漆器 -、「岩手考古学」、第号、
- 上野雄規 編 「北本州産高等植物チェックリスト」、東北植物研究会。



1a

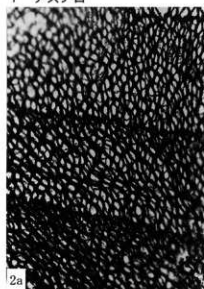


1b



1c

1 アスナロ



2a

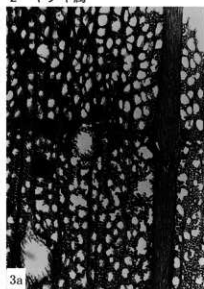


2b



2c

2 ヤナギ属



3a



3b



3c

3 フナ属

a : 木口      b : 柁目      c : 板目  
樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ、柁目では左から右。

## 第5節 米山（2）遺跡出土井戸枠の年輪年代

光谷拓実 独立行政法人 奈良文化財研究所

米山 2 遺跡の発掘調査では、ヒバ材の井戸枠を使った中世の井戸跡が発見された。このたび、これらのうち、2基、の井戸に使われていた井戸枠のなかから、年輪が約 層以上あった年輪年代法の調査対象となり得るものを から点、 から点を選定し、年代測定を実施した。以下に、その結果の概略を報告する。

### 【方法】

青森県埋蔵文化財調査センターから当研究室に搬送されてきた点の井戸枠の樹種は、すべてヒバ材であった。点のなかで、樹皮や面皮のあるもので、伐採年代が求められる形状のもの Aタイプは7点、辺材が一部でも残っているもので伐採年代に近い年代が求められる形状のもの Bタイプは2点、あとは心材だけのもので年輪年代は伐採年代よりかなり古い年代しか求められない形状のもの Cタイプが2点であった。

年輪幅の計測は、専用の年輪読取器を使って、木口面や砦目面から ミクロン単位で読み取った。各井戸枠から計測収集した年輪幅の計測値 年輪データ は、あらかじめ作成しているヒバの暦年標準パターン 年～ 年 との照合に備えた。コンピュータによる暦年標準パターンとの照合は、時系列解析に用いられる相関分析手法によった。

### 【結果】

点の井戸枠の計測年輪数や、暦年標準パターンとの照合によって得られた年輪年代は表-1に示したとおりである。計測年輪数は、一応の目安としている 層より多いものは点、残る1点だけが 層以下の 層であった。

暦年標準パターンとの照合結果は、点のなかで9点において成功した、、、、、、、。あとの2点については、年輪年代の確定した井戸枠の年輪データと個別に照合した結果、7は年代の確定した2との照合において高い値 が得られたので、2の年輪年代から年代付けをおこなって2の年輪年代を確定した。他の1点、3については、こうした一連の照合作業を通じて、年輪年代を確定することはできなかった。

SE23の築造年代： この井戸の築造年代は、Cタイプで得られた年輪年代： 年をもとにして、心材の一部とこれに続く辺材部が削除されていたので、この部分の年輪を加算すると少なくとも年代の前半頃が考えられる。

SE32の築造年代： Aタイプのなかの年輪年代は、 と が 年、 、 、 の3点が 年、 が 年、 が 年となり、それぞれ伐採年代の異なる年代が得られた。この結果を顔面どおりに考えてみると、の築造は 年～ 年直後、ついで 年頃にこの井戸の補修が一部おこなれ、最終的に 年頃に最後の補修がおこなわれていたことが推察される。これらの年輪年代から、この井戸は存続期間が 年間以上もの長きにわたって、大切に補修の手が加えられ、使われ続けていたことが読み取れる。

◆参考文献 田中琢、光谷拓実、佐藤忠信 年輪に歴史を読む - 日本における古年輪学の成立 - 、奈良国立文化財研究所学報第 号、同朋舎出版。



米山 (2) 遺跡 年輪年代測定結果

No.	種類	資料取上No.	(年輪数)	年輪年代	t値	辺材	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	A. D.
1	井戸枠部材(板) (SE23)	一括	(176+8)	1271	4.8	C		1088						1271
2	井戸枠の縦板 (SE32)	W-4	(190+27)	1440	7.0	B				1224				1440
3	井戸枠の縦板 ( " )	W-19	(178)	—	—	C								—
4	井戸枠の縦板 ( " )	W-21	(158)	1304	5.4	A		1147						1304
5	井戸枠の縦板 ( " )	W-34	(158)	1305	6.7	A		1148						1305
6	井戸枠の縦板 ( " )	W-49	(210)	1305	5.7	A		1096						1305
7	井戸枠の縦板 ( " )	W-5	(210)	1305	7.9 ( : 2 )	A		1096						1305
8	井戸枠の縦板 ( " )	W-53	(158)	1304	6.3	A		1147						1304
9	井戸枠の縦板 ( " )	W-68	(176)	1446	7.0	B				1271				1446
10	井戸枠の縦板 ( " )	一括	(123)	1469	4.6	A					1347			1469
11	井戸枠の縦板 ( " )	一括	(99)	1355	5.2	A				1257				1355

No.2~11の出土位置は図51・52参照

## 第6節 土器棺墓の土壌分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

米山 2 遺跡は、東岳山麓の丘陵から下る扇状地に立地し、縄文時代後期と中世を主体とする遺跡である。今回の発掘調査により、縄文時代では住居跡や土器棺墓などが検出され、集落が中期後葉から後期後葉まで継続することが明らかとなった。また、中世では竪穴遺構や多数の柱穴が確認されている。今回は、土器棺墓内の土壌分析を実施し、内容物に関する情報を得る。

### 1 試料

試料は、土器棺墓 の埋設土器内から採取された試料 点と、比較試料として採取された基本土層 第 層 の計 点である。遺構内から採取された土壌のうち、1、 、 の3試料は深鉢形土器から採取されたもの、残りの8点は、壺形土器から採取されたものである。

### 2 分析方法

リン酸は硝酸・過塩素酸分解 - バナドモリブデン酸比色法、腐植はチューリン法で実施する 土壌標準分析・測定委員会 。以下に各項目の具体的な操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して の篩を通過させる 風乾細土試料。風乾細土試料の水分を加熱減量法 、5時間 により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、 のふるいを全通させる 微粉砕試料。

リン酸分析は、風乾細土試料 gをケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約5 を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約 を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で に定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量 を求める。

腐植含量は、微粉砕試料 ~ gを 三角フラスコに正確に秤りとり、 Nクロム酸・硫酸混液 を正確に加え、約 の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、 フェニルアントラニル酸液を指示薬に N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量 C乾土% を求める。これに を乗じて腐植含量 % を算出する。

### 3 結果

結果を表1、図1に示す。比較試料とした基本土層の 層は、腐植 %、リン酸 で分析した 点の中で最も低い値を示す。深鉢形土器 は、リン酸が約2~3 、腐植が約2~3%を示す。両者の相関は極めて高く、 である。一方、壺形土器はリン酸が約3~ 、腐植が3 %を示す。両者の相関は低く、 である。

### 4 考察

今回の分析結果をみると、深鉢形土器Aと壺形土器では、それぞれの傾向が大きく異なる。深鉢形土器Aは、壺形土器に比べて腐植、リン酸とも低い。また、腐植とリン酸の相関が非常に高いが、分

表1. SK70のリン酸・腐植分析結果

試料	土性	土色	腐植 (%)	リン酸 (mg/g)
1	CL	10YR2/2 黒褐	3.15	2.92
2	LiC	10YR2/2 黒褐	4.62	5.30
3	LiC	10YR2/2 黒褐	5.40	4.43
4	LiC	10YR2/2 黒褐	4.83	3.15
5	CL	10YR2/2 黒褐	5.43	4.20
6	CL	10YR2/2 黒褐	4.03	4.20
7	CL	10YR2/2 黒褐	5.60	4.56
8	CL	10YR2/1 黒	5.97	3.58
9	CL	10YR2/2 黒褐	5.16	4.51
10	LiC	10YR3/2 黒褐	2.15	2.35
11	LiC	10YR3/2 黒褐	1.85	1.90
比較	SC	10YR4/4 褐	0.70	1.02

土色は新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。

土性は土壤調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）による。

CL: 埴壤土（粘土15-25%，シルト20-45%，砂3-65%）

LiC: 軽埴土（粘土25-45%，シルト0-45%，砂10-55%）

SC: 砂質埴土（粘土25-45%，シルト0-20%，砂55-75%）

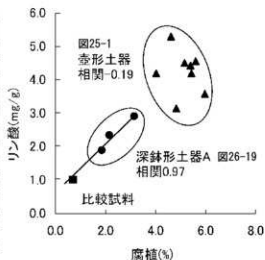


図1. 腐植とリン酸の相関

※試料の採取地点は図24参照

析試料数が少ないため断定はできない。腐植中にはリン酸が含まれているので、自然状態においてはリン酸と腐植との間に正の相関がみられる。今回の場合、深鉢形土器Aで推定される近似直線を伸ばすと、対象試料に近接し、これらの数値が一直線上にのっているのがわかる。このことから、深鉢形土器内の土壤に含まれるリン酸は、腐植に由来すると考えられ、遗体埋納等によるリン酸の付加は考えにくい。また、比較試料において腐植やリン酸が少ないのは、砂質な土壤のため、これらの成分が土壤中に保持されにくいのが要因と思われる。以上のことから、深鉢形土器A内において、リン酸を多量に含むもの 遗体などが埋納された痕跡は、今回の分析結果から見る限り認められなかった。

一方、壺形土器は、深鉢形土器に比べてリン酸、腐植含量がともに高い。これらの値が先に示した近似直線の延長上にのれば、深鉢形土器A同様自然状態と判断されるが、壺形土器の場合はこの直線から離れた試料が存在する。さらに、値のばらつきが大きく、リン酸と腐植含量に正の相関がみられない。土壤中に動物遗体などリン酸を多く含む物質が埋納されると、部位によるリン酸量の差などが影響して、覆土中のリン酸量にばらつきが生じる。また、リン酸の付加により腐植との相関も崩れる。このため、リン酸のばらつきや腐植との相関に着目すると、遗体埋納推定が可能となる。田中 など。これに当てはめると、壺形土器に関しては、遗体埋納の痕跡とみてよい。なお、今回の結果では、壺形土器において、深鉢形土器に比べ腐植含量が高い。この腐植が、埋積土に本来含まれたものか、あるいは植物質の埋納に由来するのかが、現時点では判断できない。同時期の遺構覆土との比較や、脂質分析などを組み合わせることにより、今後明らかにしていきたい。

引用文献

土壤標準分析・測定法委員会編 土壤標準分析・測定法 博友社

農林省農林水産技術会議事務局監修 新版標準土色帖

ペドロジスト懇談会編 土壤調査ハンドブック 博友社

田中 義文 遺構解析における情報の定量化と統計処理 微細遺物分析の試み

バリノ・サ・ヴェ

イ株式会社

## 第7節 遺物に付着した赤色顔料について

柴 正敏 弘前大学理工学部地球環境学科

平成 年度の調査で出土した土器棺の破片 試料 試料 及び試料 4層 及び円  
 礫 円礫 1試料 試料 河川7 に付着する赤色顔料の原料について検討した。

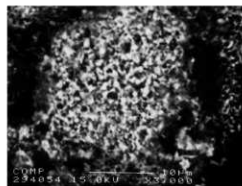
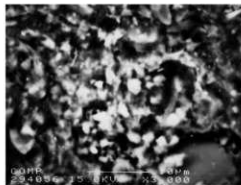
各試料の赤色部を一部採取し、カーボンテープにて試料筒に固定し、炭素蒸着を施した後、電子ブ  
 ローブマイクロアナライザー 以下E P M A を用いて定性分析及び反射電子像観察を行った。E P  
 M Aの分析条件は、加速電圧 、照射電流 ナノアンペア、解析結晶はL E D 2 T A P P E  
 T及びL I Fを用い、ホウ素からウランまでの元素を同定できる条件を適用した。

定性分析の結果、ケイ酸塩鉱物由来のケイ素、アルミニウム、ナトリウム、カリウムのほか鉄の高  
 いピークが確認できる。しかし、水銀やイオウのピークは確認できなかった。

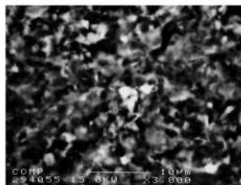
反射電子像 組成像 によれば、赤色部は径数マイクロメートルの粒子が濃集している。

これらの観察結果を総合すると、赤色顔料は、3試料とも、鉄の酸化物 主に赤鉄鉱 と考えられ、  
 水銀朱 の可能性は低い。

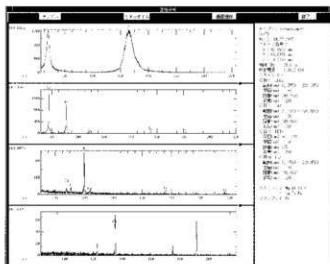
試料名	種類	出土位置	図版
	壺形土器 彩色あり	土器棺墓	図
	#	#	#
河川	台石	第7号旧河川跡	図



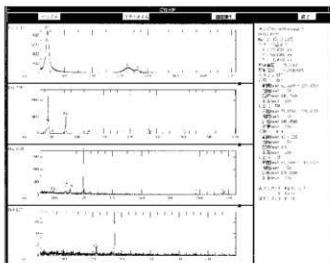
河川7 S



反射電子像はキャプションのサイズの画像を  
 %縮小して掲載した。

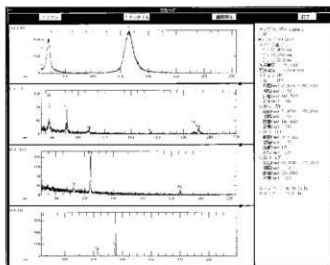


試料



試料

P



## 第6章 調査の成果

### 第1節 縄文時代について

今回の調査区からは、竪穴住居跡8軒、土器棺墓1基、炉跡1基、土坑4基 号・号・号・号、河川跡4箇所 2号・3号・7号・8号 を検出した。

竪穴住居跡は、大きく3期に区分される。

中期後葉 最花式期	3軒	1号・5号・6号
後期初頭～前葉 十腰内 式期	2軒	7号・8号
後期中葉 十腰内 式～ 式期	3軒	2号・3号・4号

中期後葉の住居跡は、いずれも石囲炉をもつもので、1号・6号は複合的な炉の形態を特徴とする複式炉の影響を受け、石囲炉の位置が壁際に偏在する。6号は、複式炉のタイプによく見られる石囲炉の内側に土器片を敷いた炉である。5号は、1号・6号とほぼ同時期の最花式の住居跡であるが、壁際に炉を偏在せず、単体として、石囲炉を設けている。この3軒の住居跡群は、調査区西側から検出され、ひとつのグループをなしていた可能性が高い。

後期初頭～前葉の十腰内 式期の住居跡は、共に地床炉で、供伴する遺物は少ない。この2軒の距離は mと離れている。また、8号住居跡は、時期を同じく 十腰内 式 する土器棺墓が近くに位置している。土器棺は彩色を施された大型の壘形土器である。4個の深鉢形土器が共伴されている。壘形土器には、二次改葬した骨が納骨されていた可能性が高く、深鉢形土器は蓋や共献用の土器と考えられる。さらに、8号住居跡と土器棺墓は、7号河川跡の末端部に位置する。この河川跡からは、後期初頭～前葉の土器片が出土し、大型の平坦な台石や、赤色が付着した角礫も出土している。この赤色付着面が平坦面であることから、これは顔料を生成する台石であったものと考えられる。

後期中葉期では、2号・4号住居跡が地床炉をもち、3号住居跡は石囲炉を有する。これらの中で、2号と3号住居跡は近い距離に位置する。2号住居跡は、第1号河川跡に住居のほぼ半分を削られている。おそらく土石流によって河川が形成され、その時に、一気に削平されたものであろう。3号住居跡の覆土および周辺も多量の礫で覆われており、これも土石流が堆積した結果である。2軒の住居跡は、東岳から流出した土石流によって、住居跡が破壊されたもの、埋もれた被災家屋ということになる。

今回の調査区および隣接する平成 年度の調査区からは、大小の規模はあるものの土石流による痕跡 小谷や河川跡 が多数確認されている。遺構は、この土石流の少ない比較的安定した箇所検出されている。本地区は、平坦な面が広がる安定した地形ではなく、東から西に向かって標高 ～ mの緩やかな傾斜面が続く。特に調査区 ～ ライン以西は扇状地性低湿地を形成している。遺構の分布や地形の標高から、縄文時代の本地区の地形は、複数の小谷や河川跡に挟まれた、尾根状の高まり 微高地 が多数あったものと想定される。つまり、こういった地形では、住居跡が群をなす集落構成は少なく、住居跡を構築可能な尾根状の微高地を選択して利用した可能性がある。

従って、本調査区の縄文時代中期・後期には、小規模の住居グループが点在した集落構成をなしていたものと考えられる。

大湯・杉野森

## 第2節 中世について

本遺跡から検出した中世の遺構は、竪穴遺構4基、カマド状遺構 基、井戸跡 基、土坑墓1基、焼土遺構4基、集石遺構2基、溝跡 条、ピット 個 このうち、掘立柱建物跡と推定されるのは1棟である。

中世の所産と考えられる遺物では、陶磁器・古銭・木製品が出土している。陶磁器は、一世紀の舶来品としての青磁皿 龍泉窯 が井戸跡から、また第 号土坑からも青磁皿が出土している。古銭は土坑墓底面から3枚密着した状態で出土した。

これらのうち、本遺跡を特徴付ける木製品、井戸跡、カマド状遺構について記述する。

### 1 木製品

木製品は、井戸跡堆積土中を中心として多数 約 点 出土している。湿性に富む井戸跡や河川跡の低湿地部分から出土しているため比較的保存状態も良く、当時の使用状況などを垣間見ることができる。また、井戸枠を構成する部材については、次項の井戸跡にても記述する。

1 飲食器・調理具 飲食器・調理具は8点出土している。漆器皿2点 図 9・図 10、漆器椀2点 図 9・図 10、箸3点 図 7～9、折敷1点 図 8、俎板1点 図 11 である。漆器皿の内1点 図 9 の高台内面には黒漆地に朱漆で「二」という文字が書かれている。漆器文化財科学研究所所長四柳嘉章氏の見解によれば、このような品は一般的に集落からはあまり出土しない製品であるとのことである。木地にはブナが使用されている。高台の内側に「二」という文字が書かれている類例としては、秋田県南秋田郡井川町洲崎遺跡のSK から出土した漆器椀が挙げられる。同遺構は、形態や埋土から墓と考えられ、出土した椀は副葬品の可能性が高いと指摘されている。漆器椀は2点共内面に朱漆、外面に黒漆が塗られている。また、外面には朱漆で、それぞれ松文・草文が描かれている。図 9 の内面中央部には焼けた痕が認められる。木地は2点共にケヤキが用いられている。形状や施文の観察から、2点は同じ場所で作られた製品と考えられる。箸は3点、いずれも欠損した状態で第 号井戸跡から出土している。現存する端部は細く削られている。人為的に折って廃棄した可能性も考えられる。折敷は食器を載せる台で、丁寧に加工が施され作られている。図 8

8は欠損後、調理具としての俎板に転用されたものと思われる。両面に線状の刃物痕が多数認められる。図 11 も転用品の可能性があるが、小型の俎板と考えられる。片面に刃物痕が多数認められる。

2 容器 曲げ物が3点 図 2・図 3・図 4、片口の鉢が1点 図 5 出土している。曲げ物 図 2 は、第 号井戸跡の底面から出土している。側板上部が一部欠損しているが、比較的良好的な状態で出土している。側板の内面には縦・斜方向のケビキ痕が明瞭に見られる。桜樺と思われる側板を押さえる結束材や、側板と底板を固定する木釘も良好的な状態で残っている。この曲げ物は出土状況から、井戸の水溜として利用されていた可能性が高い。図 2・図 3 は、かなり摩耗しているが曲げ物の底板と思われる。片口の鉢 図 5 は、第 号井戸跡から出土している。半割材が横木取りの素材を使い割り抜き方で作られ、底部には高台が付く。片口の一部と口縁部が1/4程度欠損し、また、全体的に歪んでいるが、遺存状態は比較的良好であった。内外面の一部には黒漆



が残存している。おそらく、作られた当初・使用時には全体に黒漆が塗られていたものと思われる。文様の有無については不明である。

3 履物 下駄が1点 図 6、第 5号井戸跡から出土している。全体的に摩耗しているが、前緒に1個、横緒に2個、計3個の孔が認められる。下駄の歯は2枚造り出されている様子が窺える。

4 機織り具 機織り具の部品と考えられる製品が1点 図 7 出土している。柱目の角材を利用している。断面形状はやや縦長の台形を呈し、両端の内側上部に上幅約1cm・下幅約5mm・深さ約5mm程の断面形が逆台形の刻みを有している。第5号井戸跡から出土している。米山 2 遺跡の生業の一つとして、機織りが行われていた可能性を示唆している。

5 用途不明具 加工痕が認められるが、用途が不明なものを一括した。4点出土している。 図 6

6 は棒状で、片方の端部内側に明瞭な括れ加工が施され、こけしの様な形状を呈している。第4号井戸跡から出土している。 図 7 は二股に分かれ、鉤状を呈している。股木を利用しており、端部には丁寧な加工が施されている。同じく第4号井戸跡から出土している。 図 1 は幅 2.5cm、厚さが 1.5cm程の板材で、約8cm於きに5.5cm程の四角い孔を空けている加工木である。現存部分では孔が3個空けられている。他の部材と組み合わせ使用されていたものか、単独で使用されていたものかどうかは判断できない。第 5号井戸跡から出土している。 図 4 は加工痕の見られる棒状の木製品である。直線ではなく、やや弧を描くように作られている。

6 部材 井戸枠を構成する部材を一括する。井戸枠は、隅柱・横棧・縦板・楔等によって構成されている。隅柱には丸木材を用いるものと、角材を用いるものが見られる。丸木材も角材も横棧が差し込まれる臍穴を有している。丸木材を用いた隅柱の臍穴は全て貫通している。角材を用いた隅柱の臍穴には、貫通するものとならないものが見られる。また、丸木材の臍穴を空ける部分はナタのような工具を使い、決るようにして対となる部分に平坦面を造り出し、加工をやすくしている特徴が見られる。臍穴加工位置を修正したのもも1本確認されている。角材はその形状から、大半が柱材を再利用しているものと考えられる。横棧には隅柱より細めの丸木材や角材が用いられ、隅柱を再利用したのもも確認されている。横棧の端部は、隅柱に空けられた臍穴にほぼ合うよう四角形に加工されている。隅柱の臍穴と差し込まれる横棧の端部との間に隙間が生じる場合には楔が利用されている場合も多い。第2号井戸跡の井戸枠は、2箇所楔が装着された状態で検出されている。また、第2号井戸跡からは、計3個の楔が検出されているが、ほぼ同じ規格で作られている様子が窺える。板材には幅 1.5cm、厚さ 1～3cm程の柱目板が利用されている。板材は横棧の外側に縦方向に差し込まれ、横方向に差し込まれるものは本遺跡では見られない。本遺跡に近接する山下遺跡から検出された井戸側の板材も縦方向に差し込まれている。井戸側の構造の違いには、地域差・時間差があった可能性も考えられる。

## 2 井戸跡

今回の調査区、および平成 28年度の調査にても、多数の井戸跡が検出されている。ここでは平成 28年度に精査した井戸跡 基の特徴・性格について、同時存在したと考えられる他の遺構も含めて考えてみたい。

### 井戸跡の特徴

平面形：確認時の平面形は、円形、不整形、隅丸方形に分けられる。

断面形：掘り方の断面形は、円筒形、逆台形、漏斗形に分けられる。

規模：規模は、開口部直径 ～ cm、底部直径 ～ cm、深さ ～ cmである。

堆積土：堆積土は、自然堆積、人為堆積、自然+人為堆積に分けられる。

井戸枠：存在するもの、存在しないものに分けられる。比較的掘り方の規模の小さいものは素掘りの井戸跡と考えられ、始めから井戸枠が存在していなかった可能性が高い。規模の大きな井戸跡については、廃棄時に井戸枠を取り外し、部材を再利用していた可能性も考えられる。

井戸枠は隅柱・横棧・板材等の部材によって構成されている。

部材：隅柱には丸木材、角材を利用するものが見られる。本遺跡においては、の混合は見られない。丸木材に空けられた罅穴は四角形で、貫通するものが殆どである。また、丸木材の罅穴を空ける部分は両側にナタのような工具を使い、抉るようにして平坦な面を造り出す特徴が見られる。角材に空けられた罅穴には貫通するもの、貫通しないものが見られる。

横棧には丸木材、角材が用いられ、隅柱を再利用したものも確認されている。の端部は、隅柱に空けられた罅穴にほぼ合うよう四角形に加工される。隅柱の罅穴と差し込まれる横棧とに隙間が生じる場合は楔が利用される。

板材の殆どは柱目板が利用されている。板材は掘り方からの土砂の流入を防ぐため、横棧の外側に縦方向に差し込まれ、横方向に差し込まれるものは見られない。使われている板材は再利用材が大半を占めるものと思われる。また、文字の判読はできなかったが、墨書が施されている板材も1点見つかった。

井戸跡は、遺構が比較的集中する地点からややまとまりを持って検出されている図6。井戸は言うまでもなく人工的な掘削により水を得るために造られた施設である。井戸水は季節、或いは、その年々によって水位の上下動はあるものの、安定した水量を確保するために必要な施設でもある。この地に多くの井戸跡が存在したということは、人々がここで多量の水を必要としていたことを意味している。それでは如何なる理由で多量の水が必要になったのであろうか。今回の調査区では、井戸跡の近くに「カマド状遺構」と呼ばれる施設が必ずといっていいほど存在している。一つの推論として、カマド状遺構で行われていた行為が多量の水を必要としていた可能性が考えられる。

### 3 井戸跡とカマド状遺構

中～近世代と考えられる井戸跡とカマド状遺構が同じ調査区内から検出されている遺跡として、県内では、むつ市旧川内町高野川遺跡・八戸市根城跡・弘前市境関館遺跡・同中崎館遺跡・同野脇遺跡・青森市山下遺跡・同宮田館遺跡等が挙げられる。高野川遺跡では井戸跡1基とカマド状遺構1基が検出されている。井戸枠は木組方形縦板組隅柱横棧型である。隅柱には角材が利用され、罅穴は貫通するタイプである。井戸跡の堆積土中からは世紀後半の所産と考えられる珠洲焼の擂り鉢の破片が出土している。根城跡では井戸跡基以上、カマド状遺構基以上が検出されている。境関館遺跡では井戸跡基、カマド状遺構基が検出されている。このうち井戸枠を検出できたものは5基である。中崎館遺跡では井戸跡8基、カマド状遺構5基が検出されている。野脇遺跡では中世

一近世にかけてと思われる井戸跡6基、カマド状遺構1基が検出されている。山下遺跡は米山2遺跡の南西隅に位置し、井戸跡6基、カマド状遺構1基が検出されている。1基の井戸跡からは井戸枠が検出されている。木組方形縦板組隅柱横棧型の井戸枠で、隅柱には丸木材が用いられている。胴穴は貫通するタイプである。宮田館遺跡は、山下遺跡の南西方に位置する。カマド状遺構が3基と、井戸跡も数基検出されている。

概観してみると、遺跡によって検出された遺構数にばらつきはあるが、ほぼ県内全域から検出されていることが分かる。検出された遺構に時期差は見られても、地域差は見られないものと考えられる。しかしながら、これらのカマド状遺構が全て同じ使用目的で造られたかは明確には判断できない。

また、カマド状遺構に関係なく井戸跡が存在していた場合はどうであろうか。井戸は本来居住区内に存在し、生活用水を確保するために掘られているものが多い。しかしながら、畑等が造られている場所にも井戸は存在する。現在、県内でリンゴや野菜等が作られている畑でも、薬剤散布や散水に利用するための水を井戸に依存しているところが見られる。平成 年度の調査区からは、近世以降の所産で畑跡と考えられている畝状の遺構が検出されている 図 。本遺跡で検出された井戸跡も、畑で作られる作物への散水や干魃時に利用されていた農業用、また、居住区に近接して畑が存在していた場合には、生活用との併用であった可能性も考えられる。畑や水田の脇や側に掘られる井戸は、地域によっては「野井戸」と呼ばれている。特に奈良県の奈良盆地の野井戸は「隠し井戸」とも呼ばれ、水田灌漑用の補水施設とされている。このような井戸が造られるようになったのは文献等によると近世以降とされているが、初現的なものが中世にまで遡る可能性も考えられるのではないだろうか。

本遺跡で井戸枠が撤去されず使用時、或いは使用時に近い状態で見つかったものは3基 第2・ 号井戸跡 確認されている。井戸枠の造りは3基全て木組方形縦板組隅柱横棧型と呼ばれているものである。4隅に胴穴が穿けられた柱を建て、胴穴に横棧が差し込まれ、その外側に板材が縦方向に差し込まれるものである。それらの部材を観察してみると、最初から井戸枠を構成するために造られた訳ではなく、別の場所 で用いられた材を再利用している状況が確認されている。特に、第2号井戸跡に縦板として使われていた板材の内の2枚、南縦板 図 と南縦板 図 は接合しており、残存部からは痕跡を得られていないが、接合状況からは幅約 cm、厚さ6cm程の柱目板を楔等を利用して約半分の厚さの板材に割っていたものと考えられる。その他の部材も接合はしないものの、殆どが再利用されたものと思われ、加工木材が貴重なものだったことを示唆している。第 号井戸跡の縦板は3重に差し込まれていたことが確認されている。補修を繰り返しながら長期間に亘って使われていた可能性が高く、縦板に使われていた板材の年輪年代法による測定結果からは、鎌倉時代の終わり頃 ～ 年直後 から室町時代 年頃 にかけて、 年間以上の存続期間があったことが読み取れるとされている 詳細は第5章第5節に掲載している 。また、最初にも述べたが、隅柱には丸木材を用いるものと角材を用いるものが見られ、隅柱に空けられる胴穴も、貫通するものとしないものに分けられる。丸木材を用いているものは全て胴穴が貫通しており、角材を用いているものには貫通するものとしないもの両方が見られる。一概には言えないが、时期的には丸木材の方が角材よりも先行するものと考えられる。胴穴も貫通するものがないものに先行する可能性が高いものと考えられるが、再利用の過程や用材の調達具合によっては逆転する場合もあり得る。

井戸の深さで最も浅いものは第 号井戸跡の cm、最も深いものは第5号井戸跡の cmで、平均

すると cm前後である。平均値より浅い井戸跡は場所的には扇状地地形で、伏流水の水位が高いことが影響していると考えられ、逆に深い井戸跡は伏流水の水位が低い所にあると考えられる。最も深い第5号井戸跡は比較的標高が高いところにあり、水脈にたどり着くまでに深さを要したためであろうと考えられる。しかしながら、実際には遺構の確認できた面も種々の要因が異なるため、当時の生活面からの深さは明確には分からない。

笹森

#### 4 カマド状遺構の用途について

カマド状遺構の殆どでは、その名の由来するとおり、壁面等が被熱して赤化・硬化したり、堆積土中に焼土粒・ブロックが混入するなど、火を焚いていた痕跡が認められている。火を焚くには燃料となる木や草等の存在と、その火・熱を受ける対象物が必要である。対象物についてはこれまでにも諸説 厨房施設 あげられているが、確たる物証は得られていない。おそらくは、鉄鍋等に水を入れ火を焚いてなんらかを煮沸していたものと考えられるが、確証は得られていない。水量の面から見れば、煮沸行為よりも煮沸後の行為に多量の水を必要としていた可能性も考えられる。また、火を焚いた後に残る灰を得るための施設との説もあるが、とすれば必ずしも井戸や水が必要とは限らない。しかしながら、大半のカマド状遺構の堆積土中に、灰や炭化材が殆ど残っていない状況を考慮すれば、生じた灰を何らかに使用するために全て掻きだしていたということも考えられる。いずれにしても、カマド状遺構の用途については判然としていないのが現状である。

本遺跡の場合、カマド状遺構を従来の厨房施設とは考えにくい。その理由は 居住施設が不明瞭、

カマド状遺構と同等数の井戸跡があり、近接した位置にあることが挙げられる。これまで、境関館遺跡の 基が最大検出数であるが、本遺跡は 年度の調査 未報告 時点で 基を超えている。また、未調査域にも存在する可能性が非常に高く、県内最大規模に匹敵する。これまでの、遺跡の立地条件等が異なる本遺跡で、この遺構はどのように利用されていたのだろうか。

カマド状遺構からは、遺物は全く出土せず、燃焼部に残存する炭化物の放射性炭素年代測定や、重複する遺構の年代から、その利用時期は 一 世紀と幅のある期間が想定される。遺構の構造と屋外にある点から、個々のカマド状遺構の利用期間は短いものと推測されるが、中世期に継続的に構築・使用されたものと思われ、この時期の生業の基盤の一つであった可能性がある。また、機能面では、前述の通り、周辺に井戸跡が常に存在することから、その関わりに重要な意味が隠されている。井戸跡の構築目的は、生活用水というよりも、水を多量に必要とする生産加工に関わるものと推測される。なお、井戸跡からは、栽培用としてイネ・コムギ・キビ・ヒエ・アワ・麻の種子が採取されている。麻については、川口潤氏が 米山 遺跡 報告書の中で、「繊維に関連する遺構として麻を蒸す施設」とする可能性を指摘している。麻を蒸すには大きな塼と水が必要とされ、これを蒸すためには質の子または桶状の容器が必要となる。桶の代わりに曲げ物でも可能であろう。本遺跡から麻の種子が比較的複数の井戸跡から出土していることも注目されよう。

また、今回、竪穴遺構が検出されたことで、建物に関連する遺構の存在が明らかとなった。なお、年度の調査にても同様の遺構が検出されている。推測の域ではあるが、これらが作業小屋またはカマド状遺構で使用した生産に関わる道具等の保管場所として使用されていたとみることも可能ではないだろうか。

大湯・杉野森

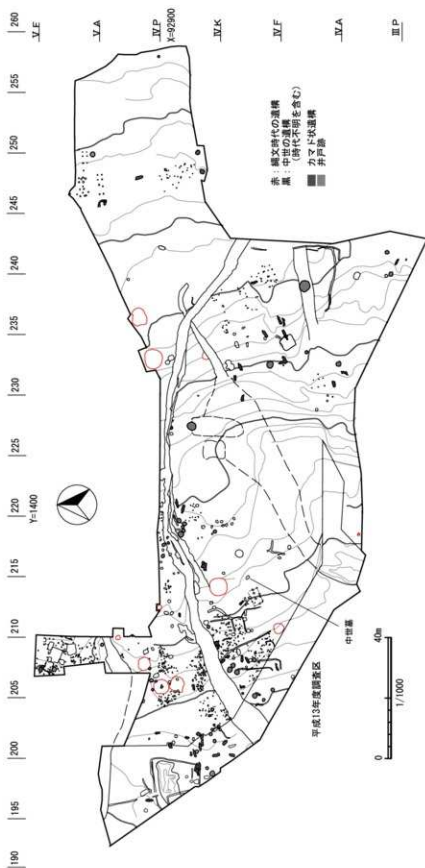


図111 米山(2)遺跡全体図



土器棺墓内出土土器観察表

図	番号	遺構名	層位	器種	部位	口径	器高	底径	施文	時期	備考
	第1号土器棺墓	■	壺	胴部上—底部	胴部径	残存高			縦方向の入り組み文と斜交長條形文、横線状口縁、折り返し口縁(左向き)付け。蓋部は折返し部に二条の紅土線を透して文様を施す。縦文。	十層内 式	文様面に赤色顔料塗布。下部に黒色物付着 痕?
	第1号土器棺墓	- 層	深鉢	胴部					無文。腹方にケズリ調飾。		器面にスス状炭化物
	第1号土器棺墓	■	■	胴部					横文、横凹形 沈線	十層内 式	
	第1号土器棺墓	■	■	胴部					無文	十層内 式	
	第1号土器棺墓	■	■	口縁部					無文	十層内 式	
	第1号土器棺墓	■	■	口縁部					無文	十層内 式	
	第1号土器棺墓	■	■	口縁部					無文	十層内 式	
	第1号土器棺墓	■	■	口縁部					無文	十層内 式	
	第1号土器棺墓	■	■	口縁部					折り返し口縁、爪状 沈線	十層内 式	
	第1号土器棺墓	■	■	口縁部					横文、斜交 沈線	十層内 式	
	第1号土器棺墓	■	■	口縁部					無文	十層内 式	
	第1号土器棺墓	■	■	口縁部					無文	十層内 式	
	第1号土器棺墓	■	■	口縁部					無文	十層内 式	
	第1号土器棺墓	■	■	口縁部					幾何文 沈線	十層内 式	
	第1号土器棺墓	■	■	胴部					横文、斜交 沈線	十層内 式	スス状炭化物
	第1号土器棺墓	■	■	胴部					爪状 沈線	十層内 式	
	第1号土器棺墓	--- 層	深鉢	底部					六條状口縁、縁状口縁下部には8字状の結土線を結び付け及び円形、長條形凹文 結土粒、胴部文様等には、縦方向の溝を施す。縦文、縦行文を施す。	十層内 式	器表面には、スス状炭化物
	第1号土器棺墓	■	深鉢	口縁—胴部下					円筒状口縁の唇下部部、口部部より胴部半分に及ぶ長條形凹文、縁区部等を構成。区部等の内部に縦位の幾何文、横位の入り組み文を施す。	十層内 式	器表面にスス状炭化物
	第1号土器棺墓	■	深鉢	胴部					円形・弧状 沈線	十層内 式	■ 同一個体、スス状炭化物
	第1号土器棺墓	■	深鉢	口縁—胴部下					五条状口縁、口縁部文様等に円形、横位長條形凹文 結土粒	十層内 式	器表面にスス状炭化物
	第1号土器棺墓	■	小型土器	底部							

土坑内出土土器観察表

図	番号	遺構名	層位	器種	部位	口径	器高	底径	施文	時期	備考
	第1号土坑	■	底皿	底部					縦位横文	晩期	
	第1号土坑	■	鉢	口縁部					無文	十層内 式	
	第1号土坑	■	鉢	胴部					沈線	十層内 式	
	第1号土坑	■	鉢	胴部					横線状沈線	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	口縁部					波状口縁、口縁部連続列目、円形沈線、縦線状沈線	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	口縁部					無文、横位 沈線	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	口縁部					二条の並行沈線、縦位の弧状文 沈線、口縁部に上下の貫通孔	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	口縁部					横位の二条の沈線、幾何文 沈線	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	胴部					横位、斜交 沈線	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	胴部					縦目状凹文	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	口縁部					口縁部に並行、縦位の弧状文 沈線、口縁部に上下の貫通孔	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	口縁部					円形文 沈線	十層内 式	表面にスス状炭化物
	第1号土坑	■	■	口縁部					長條形凹文、木彫形文 沈線	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	口縁部					波状口縁、折り返し口縁	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	口縁部					折り返し口縁、無文	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	口縁部					折り返し口縁、無文	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	口縁部					無文	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	口縁部					無文	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	口縁部					縦線文 沈線	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	胴部					無文	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	胴部					交差状文 沈線	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	胴部					横文	晩期前葉	
	第1号土坑	■	■	胴部					無文	十層内 式	
	第1号土坑	■	■	底部						晩期	
	第1号土坑	■	■	底部							

河川跡出土土器観察表(1)

図	番号	遺構名	層位	器種	部位	口径	器高	底径	施文	時期	備考
	第1号河川跡	■	底皿	鉢	口縁部				折り返し口縁 横文	晩期初葉	
	第1号河川跡	■	底皿	鉢	口縁部				折り返し口縁 横文	晩期初葉	
	第1号河川跡	■	底皿	鉢	口縁部				折り返し口縁 横文	晩期初葉	
	第1号河川跡	■	■	口縁部					無文	晩期中葉	
	第1号河川跡	■	■	口縁部					無文	十層内 式	
	第1号河川跡	■	■	口縁部					横位の縦線状沈線	十層内 式	
	第1号河川跡	■	■	胴部					単輪縁糸体回転文	十層内 式	
	第1号河川跡	■	■	胴部					横文	中葉後葉—晩期初葉	
	第2号河川跡	■	■	口縁部					縦線状沈線	十層内 式	
	第2号河川跡	■	■	胴部					単輪縁糸体回転文	円筒下層 式	
	第2号河川跡	■	■	胴部					円形、楕円形、沈線、結土粒	十層内 式	
	第2号河川跡	■	■	口縁部					縦線状沈線	十層内 式	スス状炭化物
	第2号河川跡	■	■	口縁部					縦線状沈線	十層内 式	
	第2号河川跡	■	■	胴部					方形沈線文、縦線状沈線	十層内 式	
	第2号河川跡	■	■	胴部					横位沈線、入組文 沈線	十層内 式	
	第2号河川跡	■	■	口縁部					縦線状沈線	十層内 式	
	第2号河川跡	■	■	胴部					縦目状凹文	十層内 式	
	第2号河川跡	■	■	口縁部					波状口縁、木彫形文 縦線状沈線	十層内 式	

## 河川跡出土土器観察表(2)

図	番号	遺構名	層位	器種	部位	口径	器高	底径	施文	時期	備考
	第2号河川跡	堆積土	鉢	口縁部					ボタン状張り付け文、横位、縦位沈線	十層内 式	
	第2号河川跡	堆積土		口縁部					横状把手	十層内 式	
	第2号河川跡	堆積土		口縁部					横文、横位沈線、渦巻文	十層内 式	
	第2号河川跡	堆積土		胴部					羽状横文、横位沈線	後期中葉	
	第2号河川跡	堆積土	深鉢	口縁部					羽状横文、横り消し横文	後期中葉	
	第2号河川跡	堆積土		胴部					横文	後期中葉	
	第2号河川跡	堆積土	底部						横文		
	第2号河川跡	堆積土	胴下一底部						横文	十層内 式	内面スス状炭化物
	第2号河川跡	堆積土	底部						横文、横り消し横文	後期中葉	
	第2号河川跡	堆積土	底部						横文	後期中葉	
	第2号河川跡	堆積土	胴下一底部						横文	後期前葉	
	第3号河川跡	底面	口縁部						口縁部突起、口縁部貼り輪	後期中葉	
	第3号河川跡	底面	口縁部						横文	後期	
	第3号河川跡	底面	口縁部						口唇部突起	十層内 式	
	第3号河川跡	底面	口縁部突起						口唇部突起、口縁部貼り輪、口縁部横文	後期中葉	
	第7号河川跡	堆積土	口縁部						横位、縦位横内形文	曇花式	
	第7号河川跡	層	深鉢	口縁一底部					横文	中期末葉一 後期前葉	
	第7号河川跡	層	深鉢	口縁一胴部下					格子目状沈線	十層内 式	
	第7号河川跡	層	口縁部						縦目状横糸文	十層内 式	
	第7号河川跡	層	胴部						縦目状横糸文	十層内 式	
	第7号河川跡	層	口縁部						横糸文	十層内 式	
	第7号河川跡	層	口縁部						貼り付け輪、横内形文、沈線	十層内 式	
	第7号河川跡	層	口縁部						口唇部一糸の沈線、貼り付け輪、横内形文、沈線、内面に一糸の沈線	十層内 式	
	第7号河川跡	層	口縁部						折り返し口縁、内面に一糸の沈線、横内形文、沈線	十層内 式	
	第7号河川跡	層	胴部						渦巻文、沈線	十層内 式	
	第7号河川跡	層	口縁部						縦目状横糸文	十層内 式	
	第7号河川跡	層	口縁部						縦目状横糸文	十層内 式	
	第7号河川跡	層	口縁部						口縁部無文帯、縦目状横糸文	十層内 式	スス状炭化物
	第7号河川跡	層	口縁部						折り返し口縁、横文、沈線	十層内 式	
	第7号河川跡	層	胴部						渦巻文、沈線	十層内 式	
	第7号河川跡	層	口縁部						縦目状横糸文	十層内 式	
	第7号河川跡	層	底部						横文	後期中葉	
	第7号河川跡	層	胴部						斜位、沈線	十層内 式	
	第7号河川跡	層	台付鉢 胴下一底部						工字文	大洲 式	

## 遺構外出土土器観察表(1)

図	番号	グリット名 遺構名	層位	器種	部位	口径	器高	底径	施文	時期	備考
			層	深鉢	口縁部				口唇部結状体、口縁部横糸文、庄履、胴部横文、縦位横文	内層下層 d	
			層	深鉢	口縁部				横文	中期後葉	
			層	深鉢	口縁部				波状口縁、縦位、横位粘土結、口縁部文移帯に黒糸庄履	内層上層 a	スス状炭化物
			層	深鉢	口縁部				口唇部肥厚上面沈線、器面に三糸の横位沈線文	横林式	
			層	深鉢	口縁部				口唇部張り付け、口唇部沈線、口縁部横文、斜位多糸、胴部一糸の横位沈線	横林式	
			層	深鉢	胴部				三糸の縦位沈線文	曇花式	スス状炭化物
			層	広口壺	口縁部				横筋、長横内形文、沈線	曇花式	
			層	深鉢	口縁一胴部				波状口縁、長横内形文、ウラビ状文	曇花式	
			層	深鉢	口縁部				二糸の横位 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				横位、爪状 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				横位 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				折り返し口縁、横糸文	十層内 式	
			層	鉢	胴下一底部				横文、横位	横林一曇花式	
			層	鉢	胴部一底部				横文横嵐	横林一曇花式	
			層	深鉢	口縁部				波状口縁、横位、波状 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	胴部				斜行横文、扇渦横文	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				折り返し口縁、横文	十層内 式	スス状炭化物
			層	深鉢	口縁部				波状口縁、長横内形文、沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				横位、三角形、渦巻、沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁一胴部				横位、三角形、渦巻、沈線	十層内 式	
			層	深鉢	胴下一底部				横文	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				横位の3本の沈線、爪状沈線文	十層内 式	
			層	深鉢	胴部				貼り付け文、爪状、長横内形文、沈線	十層内 式	
			層	深鉢	胴部				曲線 沈線	十層内 式	P 19
			層	深鉢	胴下一底部				横文	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				円形、横位、不整形 沈線	十層内 式	
			層	鉢	口縁部				横位、斜位 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				貼り付け文、円形文、渦巻文、沈線、内面一糸の沈線	十層内 式	
			層	壺	口縁部				横状把手、横文	十層内 式	
			層	壺	胴部				八角文、沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				長横内形文、円形 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				ゆがみ波状口縁、縦多糸 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				横位横嵐状沈線	十層内 式	赤色顔料染布
			層	深鉢	口縁部				折り返し口縁、縦多糸 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				横目状沈線、沈線	十層内 式	P 2 7 2 8



遺構外出土土器観察表(2)

図	番号	グリット名 遺構名	層位	器種	部位	口径	器高	底径	施文	時期	備考
			層	深鉢	口縁部				横位、縦線状沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				波状口縁、縦線状沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				波状 沈線、縦線状沈線	十層内 式	
			層上	深鉢	口縁部				縦線状沈線	十層内 式	スス状炭化物
			層	深鉢	口縁部				二条の横位、縦位の弧状文 沈線	十層内 式	
			層	鉢	口縁部				横位、舌弧状 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				波状口縁、横位、斜位に縦線状沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				円形刺突下に沈線、横位、斜位 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	胴部				横位、縦位に縦線状 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	胴部				横位、斜位、弧状 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				無文	十層内 式	裏面にスス状炭化物
			層	深鉢	口縁部				横位 沈線、 縄文	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				横位、クランク状文 沈線、縄文	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				横目状断文	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				縄文	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				波状口縁、弧状 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				波状口縁、横位 沈線	十層内 式	
			層	深鉢	口縁一底部				波状口縁、羽状縄文	後期中一後葉	
			層	深鉢	胴部				横目状断文	十層内 式	
			層下	深鉢	口縁部				縄文	晩期	表面にスス状炭化物
			層	深鉢	口縁一胴部				縄文 横位	後期後葉	
			層	甕	口縁部				羽状縄文、磨り消し縄文	後期後葉	
			層	鉢	口縁部				無文	後期後半	
			層	深鉢	胴部				沈線、粘土粒	大河	
			層	鉢	口縁一胴部				無文	後期後半	
			層	深鉢	口縁部				縄文、横位 沈線	十層内 式	
			層	鉢	口縁部				口縁部横位沈線、半ザシ、磨消縄文	十層内 式	
			層	深鉢	口縁部				内部刺突下に沈線	十層内 式	
			層下	深鉢	口縁一底部				縄文、横位、口縁部三条の沈線	大河	
			層	鉢	口縁一底部				口縁部沈線間に粘土粒、胴部縄文に菱形文字	大河	スス状炭化物
			層	鉢	口縁部				口唇部双状突起、菱形文字 沈線、内面沈線	大河	

剥片石器観察表(1)

図	番号	位置	層位	種類	長	幅	厚	重	石材	備考	取上	整理
			堆積土	石匙					珪質頁岩			
			堆積土	石匙					珪質頁岩			
			堆積土	石匙					珪質頁岩			
			床面	石匙					珪質頁岩	縦型		
			堆積土	石匙					珪質頁岩	刃部破壊 縦型		
			床面	石匙					珪質頁岩	有茎		
			堆積土	二次加工剥片					珪質頁岩			
			堆積土	石匙					珪質頁岩			
			堆積土	石匙					珪質頁岩			
			堆積土	二次加工剥片					珪質頁岩			
			堆積土	石匙					珪質頁岩			
			堆積土	二次加工剥片					珪質頁岩	石匙の可能性もあり		
			堆積土	二次加工剥片					珪質頁岩	刃部欠損		
			堆積土	二次加工剥片					珪質頁岩	基部欠損		
				削器					珪質頁岩			
				削器					珪質頁岩			
				二次加工剥片					珪質頁岩			
				削器					珪質頁岩			
				削器					珪質頁岩			
			堆積土	削器					珪質頁岩			
				磨削剣痕のある剥片					珪質頁岩			
				二次加工剥片					珪質頁岩			
				石匙					珪質頁岩	有茎		
			寄河川跡	石匙					珪質頁岩	グリッド、有茎		
			寄河川跡	石匙					珪質頁岩	グリッド、有茎		
			寄河川跡	石匙					珪質頁岩	グリッド、有茎		
			寄河川跡	堆積土	石匙				珪質頁岩	グリッド		
			寄河川跡	堆積土	石匙未製品				珪質頁岩	グリッド		
			寄河川跡	堆積土	石匙				珪質頁岩	グリッド		
			寄河川跡	堆積土	石匙				珪質頁岩	グリッド		
			寄河川跡	堆積土	二次加工剥片				珪質頁岩	グリッド		
			寄河川跡	堆積土	掻器				玉髄質珪質頁岩	グリッド		
			寄河川跡	堆積土	掻器				珪質頁岩	グリッド		
			寄河川跡	堆積土	磨削剣痕のある剥片				珪質頁岩	グリッド		
			寄河川跡	堆積土	削器				玉髄質珪質頁岩	グリッド		
			寄河川跡	堆積土	削器				珪質頁岩	グリッド		
			寄河川跡	堆積土	削器				珪質頁岩	グリッド		
			寄河川跡	底面	磨削剣痕のある剥片				珪質頁岩	グリッド		
			寄河川跡	底面	削器				珪質頁岩	グリッド		

剥片石器観察表(2)

図	番号	位置	層位	種類	長	幅	厚	重	石材	備考	取上	整理
				石鏃					瑠璃質岩	グリッド		
		粵河川跡	堆積土	石鏃					瑠璃質岩	グリッド		
		粵河川跡	堆積土	石鏃					瑠璃質岩	グリッド		
		粵河川跡	底面	石鏃					瑠璃質岩	グリッド		
		粵河川跡	堆積土	石鏃					瑠璃質岩	グリッド		
		粵河川跡	堆積土	石鏃					瑠璃質岩	グリッド		
		粵河川跡	底面	石鏃					玉髄質瑠璃質岩	グリッド		
		粵河川跡	石鏃						瑠璃質岩	グリッド		
		粵河川跡	石鏃						瑠璃質岩	グリッド		
		粵河川跡	二次加工剥片						瑠璃質岩	グリッド		
		粵河川跡	二次加工剥片						瑠璃質岩	グリッド		
				石鏃					瑠璃質岩	無茎		
				石鏃					玉髄質瑠璃質岩	有茎		
				石鏃					瑠璃質岩	無茎		
				石鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩	無茎		
				石鏃					瑠璃質岩	無茎		
				石鏃					瑠璃質岩	有茎		
				石鏃					玉髄			
				石鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩	短型		
				石鏃					瑠璃質岩	短型		
				石鏃					瑠璃質岩	短型		
				石鏃					瑠璃質岩	短型		
				石鏃					瑠璃質岩	短型		
				石鏃					瑠璃質岩	短型		
				石鏃					瑠璃質岩	短型		
				石鏃					瑠璃質岩	短型		
				石鏃					瑠璃質岩	未製品 短型		
				石鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩	短型		
				石鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					玉髄質瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩			
				定形石鏃の刃部					瑠璃質岩	または石鏃		
				棒鏃					瑠璃質岩			
				石鏃					瑠璃質岩			
				解器					瑠璃質岩			
				定形石鏃の刃部					瑠璃質岩			
				定形石鏃の刃部					瑠璃質岩	石鏃		
				解器					瑠璃質岩			
				解器					瑠璃質岩			
				解器					瑠璃質岩			
				解器					瑠璃質岩			
				解器					瑠璃質岩			
				棒鏃					瑠璃質岩			
				解器					瑠璃質岩			
			堆積土	棒鏃					瑠璃質岩			
				解器					瑠璃質岩			
				二次加工剥片					瑠璃質岩			
				二次加工剥片					瑠璃質岩			
				二次加工剥片					瑠璃質岩			
			堆積土	二次加工剥片					瑠璃質岩			
				二次加工剥片					瑠璃質岩			
				解器					瑠璃質岩			
			堆積土	磨削剥離のある剥片					瑠璃質岩			
				磨削剥片					瑠璃質岩			
				磨削剥離のある剥片					瑠璃質岩			
				磨削剥離のある剥片					瑠璃質岩			
				磨削剥片					玉髄質瑠璃質岩			
				磨削剥片					瑠璃質岩			

## 礎石器観察表

図	番号	出土位置	層位	器種	長 cm	幅 cm	厚 cm	重 g	石材	備考	取上	整理
			床面	礫石					砂岩			
			床面	礫石					流紋岩			
			床面	礫石					デイサイト			
			堆積土	礫石					デイサイト			
			堆積土	石皿・台石					花崗岩			
			床面	礫石					デイサイト			
			床面	礫石					デイサイト			
			床面	石皿・台石					デイサイト			
			床面	石皿・台石					デイサイト	とセットで出土		
			堆積土	礫石					デイサイト			
			堆積土	礫石					石英			
			堆積土	礫石					流紋岩	付着物あり		
			堆積土	礫石					流紋岩			
			堆積土	石皿・台石					流紋岩			
			堆積土	石皿・台石					デイサイト			
			堆積土	礫石					デイサイト			
			堆積土	礫石					凝灰岩			
			堆積土	石皿・台石					デイサイト			
			床面	磨製石斧					緑色結晶凝灰岩			
			床面	礫石・礫石					凝灰岩			
			床面	凹石					デイサイト	裂き・磨り痕あり, 焼熱あり,		
			床面	礫石					デイサイト			
			床面	礫石					デイサイト			
			堆積土	石皿					流紋岩			
			堆積土	礫石					デイサイト			
			堆積土	凹石・礫石					流紋岩			
			堆積土	礫石					流紋岩			
		土器層	堆積土	礫石・凹石					デイサイト			
				台石					凝灰岩			
				礫石					溶結凝灰岩			
				礫石					流紋岩			
				台石					凝灰岩			
				礫石					流紋岩			
				台石					花崗岩	焼熱あり		
				礫石					デイサイト			
				礫石					流紋岩			
				加工種					デイサイト			
			堆積土	台石					デイサイト	グリッド, 黄色物付着,		
			底面	磨製石斧未製品					頁岩	グリッド		
			粵河川跡	底面	台石				デイサイト	グリッド		
			粵河川跡	底面	礫石				デイサイト	グリッド, 焼熱あり,		
			粵河川跡	底面	礫石				デイサイト	グリッド		
			粵河川跡	底面	礫石・礫石				流紋岩	グリッド, 焼熱あり,		
			粵河川跡	堆積土	台石				流紋岩	グリッド		
			粵河川跡	底面	台石				凝灰岩	グリッド		
			粵河川跡	底面	礫石				頁岩	グリッド		
			粵河川跡	底面	礫石				流紋岩	グリッド		
			粵河川跡	堆積土	礫石				デイサイト	グリッド, 球状		
			粵河川跡	堆積土	凹石				デイサイト			
			粵河川跡	底面	石皿				デイサイト	グリッド, 緑付き,		
			粵河川跡	底面	礫石				流紋岩	グリッド		
			粵河川跡	底面	礫石				流紋岩	グリッド		
			粵河川跡	底面	礫石				流紋岩	グリッド		
			粵河川跡	底面	台石				デイサイト	グリッド, 黄色顔料付着,		
			粵河川跡	底面	石皿				デイサイト	グリッド		
				磨製石斧					緑色凝灰岩			
				磨製石斧					凹石			
				磨製石斧					凝灰岩	先端欠損		
				磨製石斧					デイサイト			
				磨製石斧					デイサイト			
				磨製石斧					デイサイト			
				礫石					デイサイト			
				礫石					デイサイト			
				礫石					流紋岩	黒色物付着		
				礫石					流紋岩			
				礫石					デイサイト			
			下	凹石					デイサイト			
				凹石					デイサイト			
				凹石					流紋岩			
				礫石					デイサイト			
				石皿					デイサイト			
				台石					デイサイト			
				礫石					流紋岩			

## 石製品観察表

図	番号	出土位置	層位	器種	長 cm	幅 cm	厚 cm	重 g	石材	備考	取上	整理
			床面	石棒					流紋岩			
			堆積土	石仏	高		奥行		凝灰岩			
				軽石製品					軽石			

木製品観察表(1)

図	番号	出土位置	部位	種類	木取り	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	時代	備考	取上	整理
			地埴土	杖状	丸木					中世	護部加工履	W	
			地埴土	板材	紐目					中世	切断面未加工	W 7	
			地埴土	隅柱	丸木					中世	護部・駒六加工	W	
			地埴土	隅柱	丸木					中世	護部・駒六加工	W	
			地埴土	縁柱	紐目					中世	角材に加工	W	
			地埴土	縁柱	紐目					中世	角材に加工	W A	
			地埴土	椽	紐目	ヒバ				中世	丁寧に加工・使用	W	
			地埴土	椽	紐目	アスナロ				中世	丁寧に加工	W	
			地埴土	隅柱	丸木					中世	護部・駒六加工	W	
			地埴土	隅柱	丸木					中世	護部・駒六加工	W	
			地埴土	縁柱	紐目					中世	角材に加工	W	
			地埴土	縁柱	紐目					中世	角材に加工	W a	
			地埴土	板	紐目	ヒバ				中世	丁寧に加工・使用	W b	
			地埴土	板	紐目					中世	護部加工履跡	W	
			地埴土	板	紐目					中世	図 と 挿合	W	
			地埴土	板	紐目					中世		W	
			地埴土	板	紐目					中世		W	
			地埴土	板	紐目					中世		W 5	
			地埴土	板	紐目					中世		W	
			地埴土	板	紐目					中世	図 と 挿合	W 4	
			地埴土	板	紐目					中世		W 6 B	
			地埴土	板	紐目					中世		W 6 A	
			地埴土	板	紐目					中世		W 3	
			地埴土	板	紐目					中世		W	
			地埴土	板	紐目					中世		W	
			地埴土	板	紐目					中世		W	
			地埴土	板	紐目					中世	両面塗布痕有。剥離不能	W 9	
			地埴土	板	新紐目					中世		W 7	
			地埴土	板材	紐目					中世		W 8	
図	番号	出土位置	部位	種類	木取り	樹種	口径 cm	底径 cm	器高 cm	時代	備考	取上	整理
			地埴土	皿	椀	ブナ				中世	漆器・高台内側に「二」	皿 1	
図	番号	出土位置	部位	種類	木取り	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	時代	備考	取上	整理
			地埴土	板	紐目					中世	加工前	板 1	
			底面	杖状	丸木					中世	護部加工履	W 1	
			底面	杖状	丸木					中世	護部加工履	W 2	
			底面	杖状	丸木					中世	護部加工履	W 3	
			地埴土 4 層	板材	紐目					中世	護部加工履	W 3 A	
			地埴土 4 層	板材	紐目					中世		W	
			地埴土 4 層	板材	紐目					中世		W 1	
			地埴土 4 層	板材	紐目					中世		W	
			地埴土 4 層	縁柱	丸木	ブナ属				中世	蒸れ加工	W	
			地埴土 4 層	釘状	丸木	ブナ系				中世		W A	
			地埴土 4 層	斧齧	紐目	ヒバ				中世		W A	
			地埴土 4 層	椽	椀木?	ケヤキ				中世	漆器・外面に朱漆で文様	椽 1	
			地埴土 4 層	椽	椀木?	ケヤキ				中世	漆器・外面に朱漆で文様	椽 2	
図	番号	出土位置	部位	種類	木取り	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	時代	備考	取上	整理
			地埴土	部材	紐目					中世	織り機の部材?	W	
図	番号	出土位置	部位	種類	木取り	樹種	口径 cm	底径 cm	器高 cm	時代	備考	取上	整理
			地埴土	椀・皿	椀木?	ブナ				中世	内外面朱漆	一底	
図	番号	出土位置	部位	種類	木取り	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	時代	備考	取上	整理
			地埴土	板材	紐目					中世		W	
			地埴土	板材	紐目					中世		W 1	
			地埴土	隅柱	丸木					中世	護部・駒六加工	W	
			地埴土	縁柱	丸木					中世	護部・駒六加工	W	
			地埴土	縁柱	丸木					中世	角材に加工後護部加工	W	
			地埴土	縁柱	丸木					中世	角材に加工後護部加工	W	
			地埴土	板材	紐目					中世		W A	
			地埴土	板材	紐目					中世		W 6 A	
			地埴土	板材	紐目					中世		W	
			地埴土	板材	紐目					中世		W	
			地埴土	板材	紐目					中世		W	
			地埴土	板材	紐目					中世		W	
			地埴土	板材	紐目					中世		W	
			地埴土	板材	紐目					中世		W	
			地埴土	板材	紐目					中世		W A	
			地埴土	板材	紐目					中世		W	
図	番号	出土位置	部位	種類	木取り	樹種	口径 cm	底径 cm	器高 cm	時代	備考	取上	整理
			地埴土	器物	椀					中世	内面に靱・斜のケビキ痕	蓋げ物 1	

木製品観察表(2)

図	番号	出土位置	部位	種類	木取り	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	時代	備考	取上	整理
				柱材	丸木					中世		W 2	
				角材	紐目					中世		W 3	
				柱材	丸木					中世		W 1	
				隅柱	紐目					中世	駒六加工	W	
				隅柱	紐目					中世	駒六加工	W 5	
				板材	紐目					中世		W 9 B	
				板材	紐目					中世		W	
				板材	紐目					中世		W 4	
図	番号	出土位置	部位	種類	木取り	樹種	口径 cm	底径 cm	筒高 cm	時代	備考	取上	整理
			堆積土	片口鉢	榑木					中世	内外面黒漆残存	W 5	
図	番号	出土位置	部位	種類	木取り	樹種	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	時代	備考	取上	整理
			堆積土	箸?	紐目					中世		W 6 A	
			堆積土	箸?	紐目					中世		W	
			堆積土	箸?	紐目					中世		W 6 B	
			堆積土	下駄	紐目	アスナロ				中世		W 2	
				柱材	丸木					中世		W 1	
				部材	丸木?					中世		W 1 B	
				部材	丸木?					中世		W 8	
				部材	丸木					中世		W 6	
				板材	紐目					中世		W	
				板材	紐目					中世		W	
				板材	紐目					中世		W 4	
				板材	紐目					中世		W a	
				板材	紐目					中世		W	
			底面	隅柱	丸木	ヒバ				中世	踵部・駒六加工	W	
			底面	隅柱	丸木	ヒバ				中世	踵部・駒六加工	W	
			底面	隅柱	丸木	ヒバ				中世	踵部・駒六加工	W	
			底面	隅柱	丸木	アスナロ				中世	踵部・駒六加工	W	
				榑木	丸木					中世	踵部加工	W	
				榑木	丸木					中世	踵部加工	W	
				隅柱	丸木					中世	踵部・駒六加工	W 7	
				隅柱	丸木					中世	踵部	W	
				隅柱	丸木					中世	踵部加工	W	
				榑木	丸木					中世	踵部加工	W	
				榑木	丸木					中世	踵部加工	W	
				板材	紐目	ヒバ				中世		W	
				板材	紐目	ヒバ				中世		W	
				板材	紐目	ヒバ				中世		W	
				板材	紐目	ヒバ				中世		W	
				板材	紐目	ヒバ				中世		W	
				板材	紐目	ヒバ				中世		W	
				隅柱	丸木					中世	表裏にキズ?	W	
				榑木	角材					中世		W 9	
				板材	紐目					中世		W 8	
				板材	紐目					中世		W A	
				板材	紐目					中世		W	
				板材	紐目					中世		W C	
				板材	紐目					中世		W	
				隅柱	丸木					中世		W 1	
				隅柱	丸木					中世		W 9	
				隅柱	丸木					中世		W 7	
				榑木	角材					中世		W	
				榑木	角材					中世		W 8	
				榑木	紐目					中世		W	
				榑木	角材					中世		W	
		第1号河川跡	堆積土	板	紐目	-				中世	自然底板	W	

## 須恵器観覧表

図番	番号	出土位置	グリッド	層位	種類	器種	口径 cm	底径 cm	器高 cm	備考
-	-	-	S	層	須恵器	壺	-	-	-	-
-	-	-	N	層	須恵器	壺	-	-	-	-
-	-	第2号河川跡	K	堆積土	須恵器	壺	-	-	-	-
-	-	-	A	層	須恵器	壺	-	-	-	-

## 陶磁器観覧表

図番	番号	出土位置	グリッド	層位	種類	器種	口径 cm	底径 cm	器高 cm	備考
-	-	第1号土坑	-	堆積土	磁器	青磁皿	-	-	-	中国産 ← C
-	-	-	E	層	陶器	皿・平碗	-	-	-	瀬戸産 ← C
-	-	-	I	層	磁器	青磁碗	-	-	-	中国産 ← C
-	-	第1号土坑	I	堆積土	磁器	青磁盤	-	-	-	中国産 ← C
-	-	-	I	層	陶器	すり鉢	-	-	-	期
-	-	第5号土坑	-	堆積土	陶器	壺	-	-	-	期
-	-	用水路 現代	K	堆積土	陶器	すり鉢	-	-	-	在地産?
-	-	第4号井戸跡	M	4層	陶器	すり鉢	-	-	-	期
-	-	-	N	層	陶器	すり鉢	-	-	-	期
-	-	-	M	層	陶器	すり鉢	-	-	-	期
-	-	-	M	層	陶器	すり鉢	-	-	-	期・2次焼成
-	-	第2号井戸跡	J	層	磁器	青磁碗	-	-	-	2次焼成
-	-	第1号溝跡	J	層	磁器	青磁碗	-	-	-	中国産 C
-	-	-	Q	層	磁器	青磁花瓶	-	-	-	中国産
-	-	第1号河川跡	J	堆積土	陶器	瓶子	-	-	-	瀬戸産 C?
-	-	第1号河川跡	J	堆積土	磁器	白磁碗	-	-	-	中国産 ← C
-	-	第2号河川跡	L	堆積土	磁器	青磁碗	-	-	-	中国産 ← C
-	-	-	R	層	磁器	青磁	-	-	-	中国産 ← C
-	-	-	J	層	磁器	青磁碗	-	-	-	中国産
-	-	-	I	層	磁器	青磁碗	-	-	-	中国産 C
-	-	-	H	層	磁器	青磁碗	-	-	-	中国産 ← C
-	-	-	O	層	磁器	青磁碗	-	-	-	中国産 ← C

## 古銭観覧表

図番	番号	遺構名	グリッド	層位	銘	初铸年・年号	铸国	直径 cm	厚さ mm	重さ g	備考
-	-	第1号土坑	H	底面	天禧通寶	A D	北宋				3点接合
-	-	第1号土坑	H	底面	大観通寶	A D	北宋				3点接合
-	-	第1号土坑	H	底面	永樂通寶	A D	明				3点接合
-	-	第1号土坑	O	堆積土	治平元寶	A D	北宋				家書体
-	-	-	I	層	開元通寶	A D	唐				銅貨
-	-	-	L	層	元祐通寶	A D	北宋				行書体
-	-	-	J	層	寛永通寶	A D	日本				古寛永
-	-	-	D	層	寛永通寶	A D	日本				古寛永
-	-	-	B	層	寛永通寶	A D	日本				古寛永
-	-	-	T	層	寛永通寶	A D	日本				古寛永
-	-	-	L	層	寛永通寶	A D	日本				新寛永
-	-	-	L	層	寛永通寶	A D	日本				文銭
-	-	-	J	層	寛永通寶	A D	日本				新寛永
-	-	-	A	層	寛永通寶	A D	日本				新寛永
-	-	-	S	層	文久永貨	A D	日本				銅銭
-	-	-	P	層	二銭	明治	年				銅銭





調査区から望む東岳 W



作業風景



作業風景



基本層序・ T W



基本層序・ R W

写真1 調査区・基本層序等





第1号竪穴住居跡石囲炉換出状況 S E



第1号竪穴住居跡遺物出土状況 S E



第1号竪穴住居跡遺物出土状況 W



第2号竪穴住居跡セクション E



第2号竪穴住居跡遺物出土状況 S W



第2号竪穴住居跡遺物出土状況 E



第2号竪穴住居跡遺物出土状況 E

写真2 竪穴住居跡(1)



第3号竪穴住居跡セクション N



第3号竪穴住居跡完掘 S



第3号竪穴住居跡石囲炉セクション S



第3号竪穴住居跡石囲炉完掘 S



第4号竪穴住居跡セクション S



第4号竪穴住居跡完掘 SW



第4号竪穴住居跡遺物出土状況 S



第4号竪穴住居跡遺物出土状況 S

写真3 竪穴住居跡(2)



第5号竪穴住居跡炭化材検出状況 E



第5号竪穴住居跡セクション S



第5号竪穴住居跡完掘 S



第5号竪穴住居跡石囲炉完掘 SE



第6号竪穴住居跡遺物出土状況 S



第6号竪穴住居跡遺物出土状況 E



第6号竪穴住居跡完掘 S

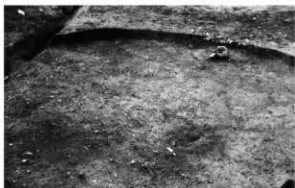


第6号竪穴住居跡土器片敷石囲炉完掘 S

写真4 竪穴住居跡(3)



第7号竪穴住居跡遺物出土状況 S



第7号竪穴住居跡完掘 W



第8号竪穴住居跡セクション S



第8号竪穴住居跡遺物出土状況 S



第8号竪穴住居跡完掘 S

写真5 竪穴住居跡(4)



第1号土器棺墓遺物出土状況 E



第1号土器棺墓セクション S



第1号土器棺墓遺物出土状況 S



第1号土器棺墓遺物出土状況 E



第1号土器棺墓完掘 S

写真6 土器棺墓



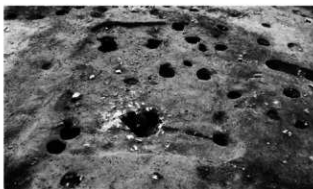
第1号竪穴遺構検出状況 E



第1号竪穴遺構完掘 N



第2号竪穴遺構セクション S



第2号竪穴遺構完掘 E



第3号竪穴遺構セクション SW



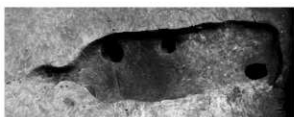
第3号竪穴遺構完掘 S



第4号竪穴遺構セクション SW



第4号竪穴遺構完掘 S



第1号カマド状遺構完掘 N



第5号カマド状遺構完掘 N



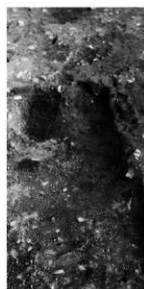
第7・8号カマド状遺構完掘 E



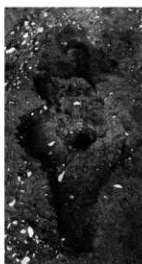
第9号カマド状遺構セクション N



第3号カマド状遺構完掘 NW



第4号カマド状遺構完掘 W

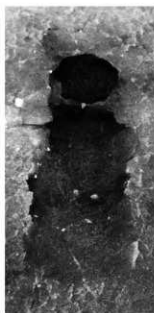


第6号カマド状遺構遺物出土状況 W



第9号カマド状遺構完掘 S

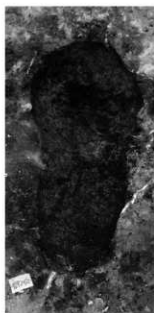
写真8 カマド状遺構(1)



第 号カマド状遺構完掘 W



第 号カマド状遺構完掘 SW



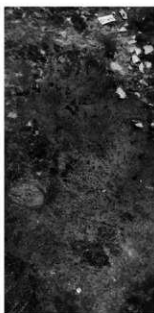
第 号カマド状遺構完掘 W



第 号カマド状遺構完掘 W



第 号カマド状遺構完掘 SW



第 号カマド状遺構完掘 S



第 号カマド状遺構完掘 W



第 号カマド状遺構完掘 S

写真9 カマド状遺構(2)

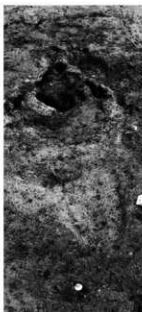




第 1 号カマド状遺構完掘 E



第 1 号カマド状遺構完掘 W



第 1 号カマド状遺構完掘 W



第 1 号カマド状遺構完掘 E



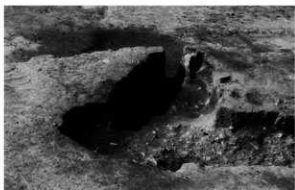
第 1 号カマド状遺構完掘 S



第 1 号カマド状遺構完掘 N



第 2 号カマド状遺構完掘 E



第 2 号カマド状遺構完掘 E

写真10 カマド状遺構 (3)



第 号カマド状遺構完掘 W



第 号カマド状遺構煙道 E



第 号カマド状遺構完掘 E



第 号カマド状遺構完掘 W



第 号カマド状遺構完掘 W



第 号カマド状遺構完掘 W



第 号カマド状遺構完掘 E



第 号カマド状遺構完掘 N

写真11 カマド状遺構 (4)



第 号カマド状遺構燃部完掘 S



第 号カマド状遺構炭化材検出状況 N



第 号カマド状遺構完掘 N



第 号カマド状遺構検出状況 NE



第 号カマド状遺構完掘 E



第 号カマド状遺構セクション S



第 号カマド状遺構完掘 N



第1号井戸跡完掘 S



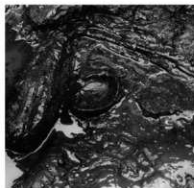
第2号井戸跡井戸側換出状況 N



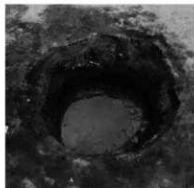
第3号井戸跡完掘 W



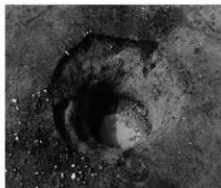
第4号井戸跡セクション S E



第4号井戸跡遺物出土状況 S



第4号井戸跡完掘 S



第5号井戸跡完掘 E



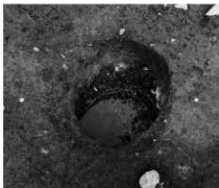
第6号井戸跡完掘 S E



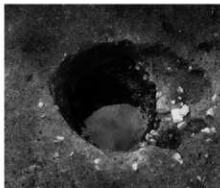
第7号井戸跡完掘 S



第8号井戸跡完掘 S



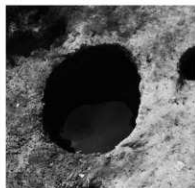
第9号井戸跡完掘 S E



第10号井戸跡完掘 N E



第 号井戸跡完掘 S



第 号井戸跡完掘 E



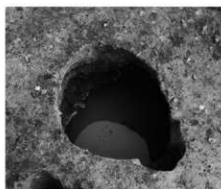
第 2・ 号井戸跡完掘 S



第 号井戸跡完掘 S



第 号井戸跡セクション E



第 号井戸跡完掘 S



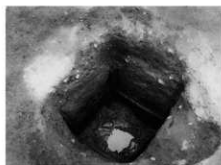
第 号井戸跡完掘 W



第 号井戸跡遺物出土状況 E



第 号井戸跡遺物出土状況 S



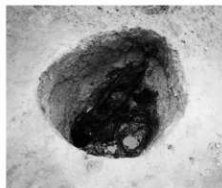
第 号井戸跡井戸枠検出状況 S



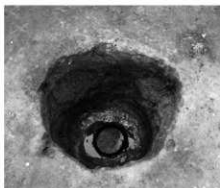
第 号井戸跡井戸枠検出状況 E



第 号井戸跡掘り方完掘 S



第 号井戸跡遺物出土状況 S



第 号井戸跡完掘 S



第 号井戸跡木杭セクション SW



第 号井戸跡セクション W



第 号井戸跡遺物出土状況 S



第 号井戸跡完掘 NW



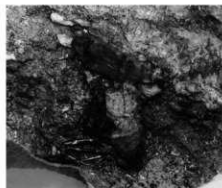
第 号井戸跡遺物出土状況 S



第 号井戸跡完掘 E



第 号井戸跡セクション E



第 号井戸跡遺物出土状況 N



第 号井戸跡遺物出土状況 E



第 号井戸跡掘り方完掘 E



第 1 号井戸跡遺物出土状況 E



第 1 号井戸跡完掘 S



第 1 号井戸跡完掘 E



第 2 号井戸跡遺物出土状況 S



第 2 号井戸跡掘り方完掘 S



第 2 号井戸跡井戸側核出土状況 N



第 2 号井戸跡遺物出土状況 N



第 2 号井戸跡石仏出土状況 S



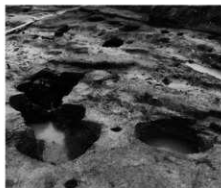
第 2 号井戸跡 2 枚目側板 N



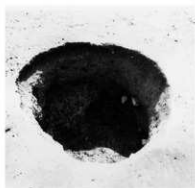
第 2 号井戸跡 3 枚目側板 N



第 2 号井戸跡遺物出土状況 N



第 2 号井戸跡完掘 E



第 5号井戸跡完掘 N



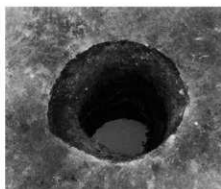
第 5号井戸跡完掘 N



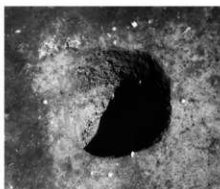
第 5号井戸跡完掘 S



第 5号井戸跡井戸枠突出状況 E



第 5号井戸跡完掘 S



第 5号井戸跡完掘 S



第 5号井戸跡完掘 N



第 5号井戸跡遺物出土状況 E



第 1号中世墓遺物 SW



第 1号中世墓 SW



第 1号集石遺構 N



第 2号集石遺構 W

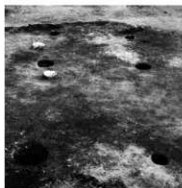




ビット群 4 N



ビット群 4 ~ W



ビット群 6 ~ W



ビット群 6 ~ W



第 4・6号溝跡完掘 S



第 4号溝跡完掘 S



第 4号溝跡完掘 S



第 4号溝跡完掘 S



第 4号溝跡完掘 S



第 4号溝跡セクション S



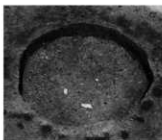
第 4号溝跡完掘 S



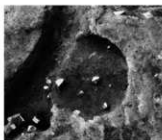
第 4号溝跡完掘 N



第3号土坑完掘 S



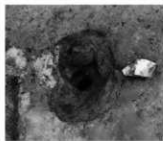
第4号土坑完掘 S



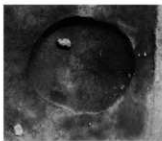
第7号土坑完掘 SE



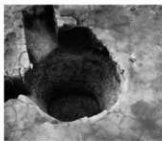
第8号土坑完掘 W



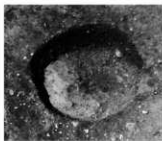
第1号土坑完掘 S



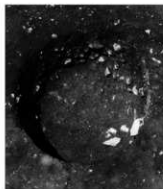
第2号土坑完掘 S



第6号土坑完掘 S



第5号土坑完掘 E



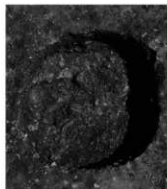
第9号土坑完掘 E



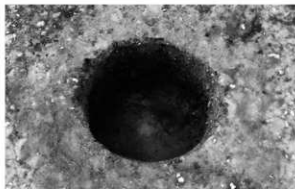
第10号土坑完掘 S



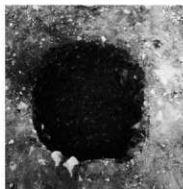
第11号外土坑完掘 N



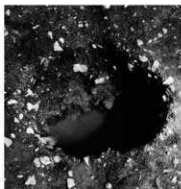
第12号土坑完掘 S



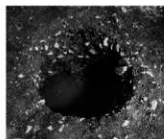
第13号土坑完掘 S



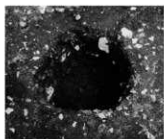
第14号土坑完掘 S



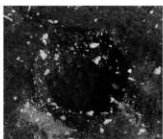
第15号土坑完掘 S



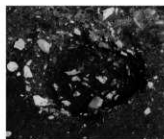
第 号土坑完掘 S



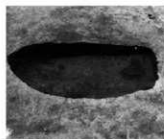
第 号土坑完掘 S



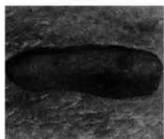
第 号土坑完掘 S



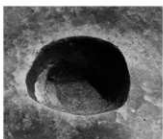
第 号土坑完掘 S



第 号土坑完掘 S



第 号土坑完掘 E



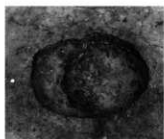
第 号土坑完掘 E



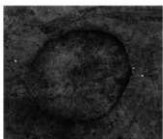
第 号土坑完掘 S



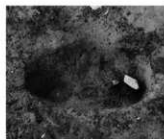
第 号土坑完掘 S



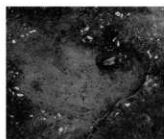
第 号土坑完掘 S



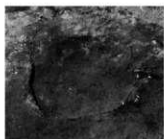
第 号土坑完掘 S



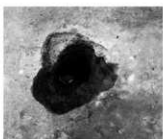
第 号土坑完掘 SW



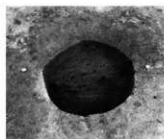
第 号土坑完掘 S



第 号土坑完掘 S E



第 号土坑遺物 W



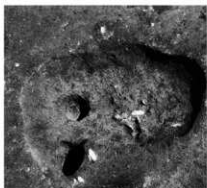
第 号土坑完掘 W



第 1 号土坑遺物 W



第 1 号土坑遺物 SW



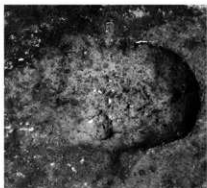
第 1 号土坑完掘 W



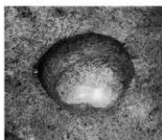
第 1 号土坑土層 SW



第 1 号土坑遺物 SW



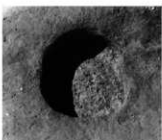
第 1 号土坑完掘 W



第 1 号土坑完掘 SW



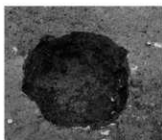
第 1 号土坑完掘 SW



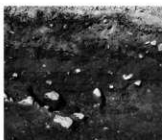
第 1 号土坑完掘 E



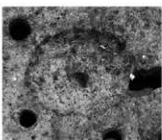
第 1 号土坑遺物 N



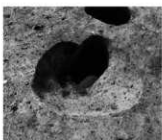
第 1 号土坑完掘 N



第 1 号土坑土層 S



第 1 号土坑完掘 S



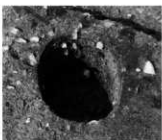
第 1 号土坑土層 E



第 号土坑完掘 E



第 号土坑完掘 S



第 号土坑完掘 S



第 号土坑完掘 SE



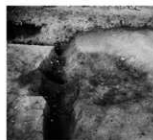
第 号土坑完掘 SE



第 号土坑完掘 E



第 号土坑遺物 E



第 号土坑完掘 N



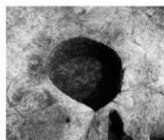
第 号土坑遺物 N



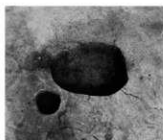
第 号土坑完掘 N



第 号土坑完掘 S



第 号土坑完掘 S



第 号土坑完掘 S



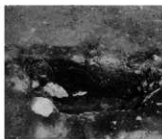
第 号土坑土層 E



第 号土坑土層 E



第 号土坑遺物 S



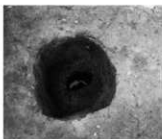
第 号土坑土層 S



第 号土坑完掘 S



第 号土坑土層 E



第 号土坑完掘 E



第 号土坑完掘 E



第 号土坑完掘 W



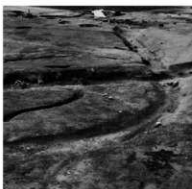
作業風景



作業風景



第1号河川跡セクション W



第1号河川跡完掘 NE



第1号河川跡遺物 SE



第1号河川跡遺物 S



第3号河川跡遺物 W



第5号河川跡セクション W



第5・6号河川跡セク SW



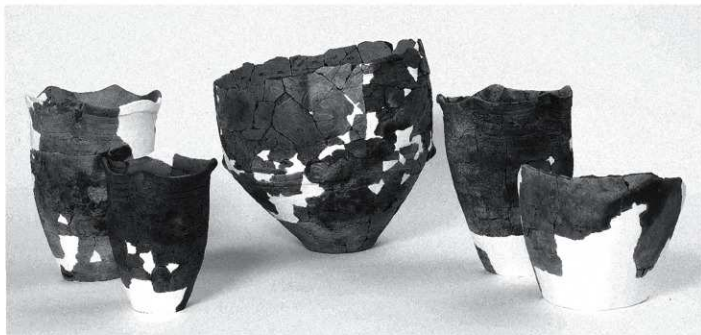
第7号河川跡セクション E



第7号河川跡遺物 E



第7号河川跡完掘 NE



土坑墓SK70出土土器



25-2



26-16

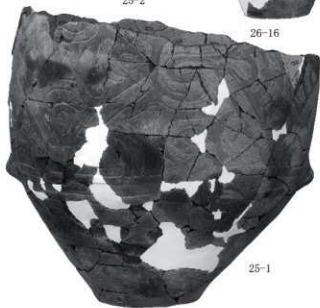


26-17



26-19

土器棺墓  
(SK70)



25-1



25-12



25-14



25-15



25-4



26-18



25-11



25-7



8-1



8-4



9-3



8-2

S102



9-1



写真25 縄文土器 (1)